

第4回霧島市立保育園あり方検討委員会 会議録

平成 24 年 3 月 13 日 (火) 13:30 ~

国分シビックセンター 701 会議室

出席委員

高橋 しのぶ、宇都 恵美、泊 奈美、堀之内 美紀、柳 貞光、川畑 隆光、山口 義幸、井上 裕美子、
宮下 朝一、久保蘭 節子

事務局

宮本保健福祉部長 花堂保健福祉政策課長、新窪政策グループ長、秋丸主任主事、茶圃児童福祉課長、山内
児童福祉保育グループ長、山下主査

< 提言について >

委員 提言の表現ですが「経営困難なところは市で運営をきなさい」ではなく、民間の力も視野に入れる形の表現に変えるべきではないか。

委員 民間で運営できるかという心配もあつての表現だろう。

委員 例えば、上場地区でも A 幼稚園は、遠くからも通っているし、本来は保育園に行くような児童も通っていて、児童数は増えている。民間でもやり方次第で上場でも運営は十分可能と思う。保育園もアピールすればいい。

委員 2 歳児が逆立ちできて、それを喜ぶことは正しいのか、自分たちは自分たちの保育の理念がある。

委員 保育園では物足りないから、いろいろ教えてくれる幼稚園に行くという人が 4 人くらいいた。今年度も 2 人年度途中で移って行った。

委員 企業は採算ラインを下回れば撤退する。社会福祉法人とは違う。実際東京でそういうことがあった。

委員 育ちという言葉がひっかかる。

委員 育ちを保育として、その後ろに（養護・教育）という表現でよいのでは。

委員 民営化の話の先に定数の配置の話が出てくる。人口推移とかも把握しているはずなので、霧島市の子供たちがこれだけいるので定員がこれだけでないとだめだとか。そういう意味で育ちを保障するということになる。

< 提言の理由について >

委員 異動により園長が変わることでもいい面もあるだろう。

委員 前は男性の園長で、今は女性の園長。今の方がすごく心遣いをしてくださる。

委員 継続した福祉理念が無くなるという意味か。

委員 異動があるのはいいこと。問題は継続した福祉理念、しっかりしたものが無い。私立は持っている。仕事の時間に追われ、保育を勉強する暇が無い。なので、保育について保護者に語れない。

委員 自分たちのところも園長の異動はある。ただ、法人は変わらないので、理念は継続する。異動云々は外してよいと思う。

委員 公立は議会を通らないといけませんが、民間であれば、保護者の要望に即応えることができるというのも理由として入れるべき。

< 付帯意見について >

委員 25年度に最初の民営化をというのはスケジュールとしてどうか

事務局 枕崎の場合、議会に説明してから1年8か月で民営化を行っている。不可能ではないが。

委員 保護者の説明会などを行わなければならない。25年度から準備をしていくという形でいいのではないか。

委員 保護者の会は保育園とは別の組織なので、会をつくれとは言わない。他の園ではこういうのがあるという紹介はするだろうが。